

SJCD international

3rd Joint Meeting

2010年
SJCDインターナショナル
合同例会in仙台

p r o g r a m

SJCD
SOCIETY OF JAPAN CLINICAL DENTISTRY

《2010年SJCD合同例会開催にあたって》



皆様いかがお過ごしでしょうか？

さて、今年7月仙台でSJCDインターナショナル主催の第3回合同例会を行う事となりました。

火の国熊本から更に仙台ではヒートアップしそうな予感がします。

全国SJCDの会員皆様のふるっでの御参加をお願いします。この例会では、まさにSJCDの原点とも言うべきケースプレゼンテーションを各支部の代表者に行ってもらいます。

全国の会員による熱いディスカッションが行われ有意義な2日間となることを熱望しています。

SJCDインターナショナル会長

山崎長郎



第3回S.J.C.D.合同例会が盛大に開催されることを非常にうれしく思います。

S.J.C.D.は1981年にDr. Raymond Kimを最高顧問としてスタートし、早や30年を迎えようとしています。

近年、歯科臨床において、先進医療機器や材料の進歩は目覚ましく、治療結果のレベルが上がり、Longevityに大きな影響をもたらしてきています。

このような時こそ、思い出して欲しいことは、S.J.C.D.で学んできた基本概念です。この基本概念を生かすことによって、進歩した機器や材料が大いに役立ち、技術や臨床判断、総合診断力等がより向上すると思います。その結果、S.J.C.D.会員の臨床力が上がり、ひいては、S.J.C.D.会員以外の人達にも良い影響をもたらすことができると信じています。

この大会が成功裡に終わることを信じると共に、S.J.C.D.インターナショナルはもちろん、東北S.J.C.D.会員の多大な労力と細部に亘る準備、心づかいに心から感謝します。

SJCDインターナショナル 副会長

本多 正明



東北SJCDが発足して6年目を迎えます。これもSJCDインターナショナル会長山崎長郎先生、顧問の小濱忠一先生、多くのSJCDのインストラクターの先生方のご指導の賜と深く感謝しております。

さて、今回SJCDにおいて、2年に1回の最大のイベントである第3回合同例会を、みちのくは東北、仙台で開催することになり大変うれしく思っております。全国から大勢の会員が集結し、熱いディスカッションを交わし、親睦を深め、その輪を広めることは大変素晴らしい一言に尽きます。この2日間参加された皆様におかれましては、臨床の研鑽の場、あるいはモチベーションの向上に繋がればこの上ない幸せです。是非、素敵な仙台を堪能していただきたいと存じます。この大会が成功裡に終われるよう会員一同、全力で臨みたいと考えておりますので、ご協力、ならびにご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

大会会長

菊地 賢

《タイムスケジュール》

7月18日（日）

12:00～12:30 開会式
 12:30～14:00 コンベンショナル1～3
 14:00～14:10 休憩
 14:10～15:10 コンベンショナル4～5
 15:10～15:30 休憩
 15:30～17:00 インプラント1～3
 17:00～17:10 休憩
 17:10～18:10 インプラント4～5
 19:00～21:00 懇親会

7月19日（月祝）

09:00～10:30 審美修復治療1～3
 10:30～10:40 休憩
 10:40～11:40 審美修復治療4～5
 11:40～12:40 昼食
 12:40～13:40 本多正明副会長 特別講演
 13:40～14:10 表彰式 閉会式

C o o r d i n a t o r

Theme - 1 コンベンショナルレストレーション



鈴木真名先生

東京都葛飾区開業
 東京SJCD会長



木原敏裕先生

奈良県奈良市開業
 SJCDインターナショナル常任理事

Theme - 2 インプラント治療



小濱忠一先生

福島県いわき市開業
 SJCDインターナショナル常任理事



伊藤雄策先生

大阪府大阪市開業
 SJCDインターナショナル常任理事

Theme - 3 審美修復治療



土屋賢司先生

東京都千代田区開業
 SJCDインターナショナル常任理事



南 昌宏先生

大阪府大阪市開業
 SJCDインターナショナル常任理事

日曜日12:30~13:00

《コンベンショナル-1》メンテナンスから学んだ事

術後11年のケースを中心に…

岡崎英起

大阪府大阪市開業 大阪SJCD

座長：鈴木真名先生



患者様が来院され、カウンセリングを行うことから我々の主な仕事が始まる。そこからSJCDの基本コンセプトに沿って基礎資料の収集、診断と治療を進め修復治療後、メンテナンスからリコールへと流れていく。

複雑なケースになればなるほど、私達医療従事者は患者様と共に補綴物装着というゴールに向けて全力を注ぐ。ゴールすると一旦、通院は終了したかの様に気の緩みが出てしまうのは患者様だけではない。それ以上に私達医療従事者が胸を撫で下ろすのではないであろうか。しかし、その瞬間が“終わりは始まり”である。今回、私が29歳の時に治療を開始した歯周補綴、術後11年間の変遷(治療の再介入)で学んだことを中心に皆様とディスカッションしたいと思います。

日曜日13:00~13:30

《コンベンショナル-2》より生理的な方向へ導く為の不正咬合へのアプローチ

尾上拓郎

兵庫県宝塚市開業 京都SJCD

座長：鈴木真名先生



多くの人は何らかの不正咬合を有していると言われている。

不正咬合の中には生理的に許容範囲内の状態もあるが、症状が顕在化し病的な状態に進行してしまった状態もある。

我々が病的な咬合状態を治療する場合、すべての不正咬合に介入し理想 (ideal)とされる処置を目指すことも時として必要ではあるが、患者固有の病態を考慮した最適(optimum)な治療を目指すことこそ重要と思われる。

また、日々の臨床において患者側の要求を重んじるあまり、結果として妥協(compromise)的な方向へ陥り、治療ゴールの設定を見誤ってしまうこともある。

結果的に治療の内容が同じであったとしても最適 (optimum)なプランと妥協(compromise)的なプランでは、決定的にその意味合いが違ってくることも忘れてはいけない。

今回は現時点の状態のみではなく、適応能力や時間軸等の患者固有の条件を考慮し、下顎前歯のLOTによるアンテリアガイドランスの改善と確実な臼歯部オクルーザルコンタクトの付与により、病的に傾きつつある状態から、より生理的に安定した状態を目指した治療を、症例を通じて考察してみたい。

日曜日13:30~14:00

《コンベンショナル-3》上顎前歯部のファンクショナルインプラーブメント

園木 誠

熊本県菊池市開業 熊本SJCD

座長：鈴木真名先生



補綴治療を長期安定させるために重要なことは、顎頭の位置を中心位（CR）に求め、咬頭嵌合位(ICP)において全歯牙が、適切な接触点を有することにより咬合圧の分散を図ることである。また、偏心位において前歯群がそれぞれ適切なガイドを行うことにより、臼歯が離開することが理想とされている。

しかしアングルⅡ級やⅢ級の症例では、上下顎歯の対合関係が悪く、それが実現できないことも多く、動的治療のゴールであるファイナルレストレーションをどのような咬合接触で行うのかといった問題に遭遇することが多い。

今回、アングルⅡ級の症例で、上下顎歯の対合関係が悪い患者に対して、補綴前矯正を下顎歯列に行い上顎前歯部との対合関係を改善し、偏心位において前歯群がそれぞれ適切なガイドを与えることができ、患者の満足が得られた症例を発表する。

Keywords： 下顎遠心咬合(アングルⅡ級)
Supra-sub gingival counter
歯肉のサポート

日曜日14:10~14:40

《コンベンショナル-4》SJCDの理念と治療実像の落差

羽生好太

新潟県三条市開業 新潟SJCD

座長：木原敏裕先生



SJCDに入会して以来自分なりにその理念を追従して20年が過ぎた。USCのDr.Raymond.L.Kimを師と仰ぎ、山崎長郎、本多正明先生を頂点として確立された治療に対する基本的な考え方である一口腔単位の診断、診療を心がけて来た。そして治療後、長期にわたる健康維持を可能にする炎症のコントロールと力のコントロールを臨床指針としてメンテナンスに専念してきた術後治療像が、私が意図する理想イコールSJCD理念？とかけ離れた像を呈して落胆もした。

再発や新たな疾病が発症した原因を術後の定期的な管理で得られたスライドとデータから検証し、困難な再治療に挑戦する事になったが、再度SJCDマニュアルを精読し、講修会にも出席して必要な情報を得て再治療を行った。

しかしながら、病態の難度と自己嫌悪と社会的問題から所謂、原因療法とはかけ離れた場当たりの治療を繰り返す事になったり、又他の症例では全顎再治療になったりとなる。

広範囲な補綴治療についての知識の無さもあるであろうし、取り組んだ事への暴挙と批判的な意見もあるであろう。開業後も研修医として勤めた細山歯科で1991年に治療を行い2010年迄に20年の長期間のメンテナンスを続けてきて、悩み、幻想に苛まれながらここまで来た症例を分析し自己の力量のなさや生体のダイナミックさに翻弄された様子を報告し賢明なSJCD諸氏のご批判を頂きたい。

日曜日14:40～15:10

《コンベンショナル-5》**臼歯部欠損における咬合再構成を行った一症例**

阿部浩佳

宮城県仙台市開業 東北SJCD

座長：木原敏裕先生



機能と審美の回復を目的として修復治療を行う際に、崩壊に至った原因を究明すること。そして、SJCDのコンセプトにのっとり診査診断を基に治療ゴールを設定すること。そのゴールに対する的確な治療計画をたて、一つひとつのステップを確実に進めていくことが治療成功の鍵となります。

患者さんは57歳の女性で下顎臼歯部の欠損による咀嚼障害と前歯における審美的不満を訴え来院されました。現症として臼歯部の欠損、前歯部の叢生、不適合補綴物、エンドリージョン、顎位の変位、咬合平面の乱れが認められました。そこで、機能と審美の回復を目的としインプラントとセラミックを用いた全顎的治療を行うこととしました。

診査、診断、治療計画に基づいた歯冠修復の一症例を報告し御指導いただきたいと思います。

日曜日15:30～16:00

《インプラント-1》**多数歯欠損にインプラントを用いて咬合再構成した1症例**

瀬尾尚弘

石川県石川郡開業 北陸SJCD

座長：小濱忠一先生



多数歯欠損の症例に対しインプラントを用いて咬合再構成を図ることは、咀嚼機能の回復と同時に残存歯の保護につながる。今回、多数歯欠損にインプラントを用いて全顎的な咬合再構成をした症例を報告する。

患者は58歳男性、下顎前歯部の冷水痛を主訴として来院。臼歯部に欠損が存在し、残存歯には著しい咬耗が見られた。初期治療後、中心位による咬合診断を行い咬合高径及び咬合平面を決定し、上顎前歯部及び臼歯部さらに下顎臼歯部にかけてインプラントを埋入した。またプロビジョナルレストレーションによって咬合高径・前歯の位置と形態・咬合平面を評価した後、最終補綴を装着した。

治療のステップと結果を報告し、あらためて治療計画、補綴設計についてのご意見とご指導を頂きたい。

日曜日16:00～16:30

《インプラント-2》ClassII臼歯部崩壊症例に対する矯正医との連携によるアプローチ

岡崎伸一

愛知県清須市開業 名古屋SJCD

座長：小濱忠一先生



複雑な咬合再構成を必要とする症例では複数の治療分野にかかわる多くの要素をいかにマネジメントしていくかが重要である。そして治療にあたる構成チームが有機的に機能するためには的確な診査、診断のもと妥当性のある治療計画を相互に十分理解し、各ステップを確実に行っていかなければならない。

今回は包含する多くの問題点に対しインターディシプリナリーアプローチを試みた症例を呈示したい。

患者は51歳女性、下顎臼歯部ブリッジの脱離を主訴に来院。診査によりペリオ的な問題はないものの咬合関係はII級で、アンテリアガイダンスが確立されていない状態に医原的要因が重なり欠損が拡大していると診断した。欠損歯列にはインプラント治療、咬合関係改善には矯正治療を選択し、精密な補綴の対応を加え治療ゴールを設定した。矯正医との連携に際していくつかの問題点が浮き彫りになったが、同時に連携の有効性もまた確信できる結果となったので報告し、ご指導をいただきたいと思う。

日曜日16:30～17:00

《インプラント-3》咬頭嵌合位の維持・安定を目指して

～力のコントロールに留意した全顎的治療症例～

田中一茂

大阪府堺市開業 大阪SJCD

座長：小濱忠一先生



卒後5年目にSJCDのコースを受講し、一口腔単位を総合的に捕らえながら治療ゴールを目指すというコンセプトを学びました。

日常臨床において“患者ひとりひとりにとって適切で良心的かつ誠実な歯科医療（Bonafide Dentistry）”をどれだけ考えているのか自分自身に問いかけ、対応や判断を誤った方向に導かないようにするには何が重要なのか患者様、師に教えを頂いています。コース直後に治療をスタートしSJCDで学んだ治療の流れを遵守し全顎的治療を行ったケースを報告します。

患者は59歳女性、左下ブリッジ部支台歯の疼痛、腫脹を主訴に来院されました。支台歯は歯根破折のため保存不可能と判断。診査の結果、構造力学的に不安定な補綴物、咬合不安定に起因すると診断。下顎臼歯部にインプラントを使用し、1st、2nd、finalプロビジョナルレストレーションにて口腔内の環境を再評価、コントロールしました。

修復治療の長期安定性においては、炎症のコントロールと力のコントロールが大切であり、今回のケースでは特に力のコントロールに留意し、『咬頭嵌合位の維持・安定』を目標に治療を進めました。術後1年半ですがメンテナンスにおいても問題なく現在まで良好に経過している状態であり、治療結果に対する考察とともに報告し、皆様の評価を頂きたいと思います。

日曜日17:10~17:40

《インプラント-4》Immediate Function with Guided Abutment for P.I.B. and CEREC

高井裕史

山口県宇部市開業 広島SJCD

座長：伊藤雄策先生



インプラント治療が日常的に行われてきた現在、時代は、いかに確実に、安心して、容易に施術できるかという成熟期に入ってきた。ここでは、熟練者や匠のみにしかできない秘技が必要であるということは許されない。そして、ガイドサージャリーが提唱され、定着しつつある。補綴主導設計を行い、サージカルガイドを使用し、適切なposition、トルクで埋入されたインプラントは、可能な場合には、即時荷重され、施術即日にImmediate Functionされることが望ましい。その場合、術直後の安定した咬合とインプラントへの最小限の負担という要件を得るには、術前から準備したProvisional Restorationが大変重要である。しかし、現状でそれを阻むのが、インプラントの埋入精度と暫間Abutmentである。この度、その解決の一助となるNobelBiocare社製のGuided Abutmentを使用したインプラント即時荷重のフルマウス治療について、フレームにP.I.B.、将来のトラブル時にも即応すべく歯冠補綴にCAD-CAMセレックの利用を試みた一症例を報告したい。

日曜日17:40~18:10

《インプラント-5》患者満足度を考慮したフルボーンアンカード・ブリッジ症例

下田 徹

兵庫県尼崎市開業 福岡SJCD

座長：伊藤雄策先生



患者は56歳女性、重度成人性歯周炎による審美障害と咀嚼障害を主訴とし、審美的かつ低侵襲なインプラント治療を希望し当院を受診した。Major Structural Loss, Severe Bone Lossの診断にてフルボーンアンカード・ブリッジによるインプラント治療を計画した。咬合高径の維持と即時義歯の維持のため上下左右最後臼歯を一時的に保存し、上下左右最後臼歯以外を抜歯し即時義歯にて軟組織の治癒を待った後、Nobel Guide TMを用いたフラップレス手術にて上下顎にインプラントを埋入し、同日に暫間補綴物を装着した。

チタン製プロセラインプラントブリッジTMと人工歯を用いたプロビジョナルを装着後残存歯を抜歯し、咬合や歯列および顔貌の審美性を十分に評価した後、ジルコニア製プロセラインプラントブリッジTMとプロセラオールセラミッククラウンTMによる最終上部構造を装着した。

月曜日09:00~09:30

《審美修復治療-1》前歯部審美障害に対するアプローチ

工藤明文

北海道札幌市開業 北海道SJCD

座長：土屋賢司先生



時代の変化とともに審美的な治療を希望し来院する患者は、年々増加している。

そのような患者の治療を進めていく上で、SJCDのコンセプトである診査・診断・治療計画の重要性をあらためて痛感する。このコンセプトに従い、患者の希望、価値観、都合などを十分に聞き入れ、順序立てて治療を進めることにより、最終ゴールである自然感あふれた審美性の回復が可能になる。

患者は33歳の女性。審美性の欠如、特に上顎前歯部の歯の色調、歯冠形態不良を主訴に来院。

上顎前歯部正中にブラクトライアングルがあり、右上側切歯には、メタルセラミッククラウンが装着、シャドウを認める。隣接部にコンポジットレジン修復がされている。

治療計画としては、診断用ワックスアップにて歯冠形態、6前歯のバランス、ブラクトライアングルが閉鎖可能かどうかシミュレーションをし、診断用モックアップにて患者に治療の可能性を十分説明、納得を得た上で確定的処置を行った。

今回は、前歯部に審美的要求の強い患者に対して、どのようにアプローチをし臨床を行っているのか提示し、皆様にご意見を伺いたいと思う。

月曜日09:30~10:00

《審美修復治療-2》審美修復治療の診断と設計

加部聡一

東京都千代田区開業 東京SJCD

座長：土屋賢司先生



審美修復治療として最高の結果を導くためには、様々なガイドラインにそって、診断と治療計画そして治療ゴールをいかに的確に判断し、立案し、遂行するかが一番重要であると考えている。また支台歯、口腔内全体に対して最小の侵襲で最大の効果を得るminimal interventionという概念が審美修復治療には最も必要であろう。

今回は補綴治療の診断としてワックスアップ、モックアップを行い、慎重に材料や支台歯形成の設計を行い、補綴物の審美性の獲得を目指した症例を提示したい。

患者は、30歳女性、初診が2004年12月、前歯のコンポジットレジンの変色と脱離による審美障害を主訴に来院された。

上顎6前歯は歯牙の近遠心・舌面にコンポジットレジン充填がされており何度か破折、脱離を繰り返していたため、患者は6前歯の再治療を希望された。口腔内の既往歴としては17年程前に前歯だけの矯正治療を行った。その後、後戻りによる歯牙の移動がおり接触関係を失い、舌面、隣接面をコンポジットレジン充填によって回復されていたと推測した。ペリオに問題は存在しなかった。咬合関係は左右側ともに一級関係で安定しており、また顎関節にも異常は認められないため、現在の咬合状態を維持することに努めた。患者は歯牙の色調、短すぎる形態に不満を訴え、もっと綺麗に長持ちする歯にしたいと希望された。そこで診断用ワックスアップ、モックアップを用いてMIの概念を考慮し補綴設計を立案した。

術中のステップと術後4年の経過のスライドを提示し、あらためて治療計画、補綴設計についての御意見を頂戴し、ディスカッションさせていただきたい。

月曜日10:00~10:30

《審美修復治療-3》 **ブラキシズムによる歯列崩壊に対して、 フルマウス・リハビリテーションを行った1症例**

益井孝文

徳島県鳴門市開業 四国SJCD

座長：土屋賢司先生



患者は56歳女性。主訴は歯肉の腫脹。歯科既往歴として、多数の歯根破折を繰り返してきたブラキサーです。診断、コンサルテーションを行い、咬合挙上を伴う全顎的処置を行いました。

治療ステップとして、

(1)スプリントによる顎位の確認

(2)診断用WAX UP

(3)欠損部補綴としてインプラントを応用し、歯周組織の状態改善のための歯周外科、アンテリアカップリングの獲得のためMTMを施術

(4)プロビジョナルレストレーションによるステップ毎の再評価

(5)ファイナルレストレーションとしては、前歯部オールセラミックス、臼歯部にはPFMを選択

(6)処置完了後、維持のためにスプリントを使用

治療完了後、患者様には「よく噛めるようになり、食事が楽になった。人前で笑えるようになった。」と満足いただきました。メインテナンスに移り1年半が経過いたしますが、状態は良好です。

月曜日10:40~11:10

《審美修復治療-4》 **インターディシプリナリーアプローチにおける 補綴修復医と矯正医との連携について**

浦 嘉訓

佐賀県佐賀市開業 福岡SJCD

座長：南 昌宏先生



包括的歯科治療を行っていく上で、審美性、機能、構造、生物学的恒常性の回復、改善を目標として治療を行っていく必要がある。その為には、矯正治療を併用した処置が必要になる場合が多い。

インターディシプリナリーアプローチを行っていく上で、矯正医と補綴修復医は、それぞれの立場から意見を出し合い、最終的な共通の治療ゴールをイメージし、治療方針を立案し治療を行っていく。

その際に、臨床では様々な、矯正的アプローチがあり、それぞれの特徴について補綴修復医も理解している必要がある。

今回、矯正治療における、抜歯ケース、非抜歯ケースについて、また 唇側矯正、舌側矯正について、補綴修復医の立場から、いくつかの症例とともに検討したい。

患者は36才女性。審美障害を主訴として来院された。

矯正医と協議の上、矯正治療により咬合関係を改善の後、

補綴修復処置を行い咬合の安定を得られた。

月曜日11:10~11:40

《審美修復治療-5》 Significant Alteration in Aesthetic Framework

中田典光

茨城県常総市開業 東京SJCD

座長：南 昌宏先生



かつて歯周補綴の時代において、力と炎症のコントロールが修復治療の要であるといわれてきたが、現在においてもその原則は必須の条件であることは間違いない。

昨今においては、患者の審美的な要望の高まりもあり、咬合、歯周組織の保全および審美の3点が重要な条件となる。要するに、修復治療の目的は、失われた審美性、機能を回復させ、残存組織の保全をはかることにあり、そのうえ構造力学、生物学的恒常性を満たすことで、予測性、永続性が得られることになる。

また修復治療とは、そこにあるべき姿を再現することであり、Arch Form、Teeth FormとOral Composition 歯冠、歯列の全顎的な周辺組織との調和がとれていることが重要であり、これら修復治療の3要素が得られることで口腔の健康が長期にわたり保証（Longevity）するともいわれている。（桑田正博）

Form follows Function（形態は機能に従う）とは、超高層建築の父 Louis Sullivanにより提唱された設計、デザインの原理であり、機能をバックグラウンドとしないで作られた形は、永続性は持たないとされている。繰り返しになるが審美と機能の両立が大きなKey Pointになり、口腔内のみに着目するのではなく、口唇、顔貌、顎関節周囲組織との調和した審美を考慮することが重要になる。

今回のケースは、下顎両側臼歯部において過去のインプラントであるブレードタイプインプラントの動揺、また前歯部に審美障害、臼歯部の挺出等の問題点があり、修復治療を行ったものを提示する。ブレードタイプインプラントを除去し、GBRとインプラント埋入を行った。咬合崩壊の直前で、新たなインプラントにより下顎のVertical Stopを確保した。また、上顎が天然歯で挺出しているという条件もあり、私なりに考慮し、また苦慮しながら治療を進めてきた。この症例を通じインプラントの効果や、その背景にある補綴要件の難解さと予測性、歯列の保持、咬合平面の是正、顔貌からの評価等、私なりの考察を加えたので、ここに報告提示する。

月曜日12:40~13:40

《特別講演》 Back to the Basic & Challenge for the Future

本多正明

S.J.C.D.インターナショナル副会長

座長：南 昌宏先生



近年、S.J.C.D.会員をはじめ、多くの先生がインプラント治療の審美歯科に目を向け、日常臨床において、素晴らしい結果を出している。しかし、その一方では、予後不良となり、再介入が非常に困難になっているケースが多くみられる。先進機器・材料の発展に振り回されることなく、使用法をしっかりと考え、適切に使用してほしい。

今回は短い時間の中で、S.J.C.D.の基本原則の重要性を話したい。

2010年SJCDインターナショナル合同例会in仙台

●開催日時 2010年7月18日(日) 12:00~18:10

※19:00~懇親会(仙台エクセルホテル東急)

19日(月) 09:00~14:10

●会場 仙台エクセルホテル東急



仙台市青葉区一番町2-9-25

●仙台駅から
徒歩約15分、タクシーで約5分。

●仙台空港から
仙台空港駅より仙台空港アクセス鉄道で仙台駅まで約25分、630円。

●参加資格 SJCD会員のみ

●参加費 無料(ただし懇親会費は10,000円別途)

●申込方法 各支部SJCD事務局にて一括

●ゴルフ 7月17日(土)泉パークタウンゴルフにて

東北SJCD事務局

有限会社十大技研 内

〒985-0004塩竈市藤倉2-16-48

022-363-2842(fax 363-6055)

<http://www.ourdent.com/sjcd>

jjudai.c@tc4.so-net.ne.jp 島崎春樹

実行委員

大会長 /菊地 賢

展示・賛助会員担当 /阿部浩佳・高橋 毅

副会長 /杉山 豊

会場進行管理担当 /佐藤 充

会計管理担当 /島崎春樹・成田吉則

懇親会担当 /守 篤彦

プログラム担当 /杉山 豊

ゴルフコンペ担当 /清野浩昭

例会発表担当 /永澤義安・横山大助

事務局 /島崎春樹(有)十大技研

受付管理担当 /佐々木雪恵・中澤正絵

インターナショナル /栗津貴昭(有限会社アワデント)